

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000015		
法人名	医療法人 正志会		
事業所名	グループホーム ひりゅう		
所在地	大阪市東淀川区大道南1-4-13		
自己評価作成日	平成25年4月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①医療法人で、透析患者やインスリン注射・胃ろうの方の入居もでき、医療面でのケアが可能である。
- ②2Fにクリニックが併設しており、診察が必要な方は診てもらえる。
- ③終身であり、要介護度によつての受け入れ拒否や退所はない。
- ④同じ法人の施設との協力体制が整っており、行事なども一緒に行っている。
- ⑤認知症ケア、介護技術の勉強会を定期的に行っている。
- ⑥地域行事などへの外出機会を増やし、地域交流に向けての取り組みを行っている。
- ⑦入居者一人ひとりに寄り添い、担当者が外出などの個別ケアに取り組んでいる。
- ⑧淀川の河川敷の近くで、建物の前は公園があり、夜も静かで環境がとても良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人正志会グループホーム「ひりゅう」は淀川堤防が見渡せる閑静な住宅地の4階建の4階にある。1階は接骨院(協力機関)・2階はクリニック・3階は小規模多機能型居宅介護ある。向かいには地域住民の憩いの場、竹間公園があり運動会シーズンともなれば、近隣の幼稚園児が運動会の練習や、老人会の方々がゲートボールの試合の練習をしている光景が見える。利用者全員が自治会員となり、地域住民との交流が盛んである。職員はチームワークが良く、基本理念を基に職員が輪番制で週間目標を掲げて、実践に向けて日々努力している。またホームには看護師が常駐し(胃ろう、人工透析、糖尿病のインシュリンの管理等)と医療体制が充実し、安心できる施設である。管理者、職員は常に利用者の立場に立って、要望や意見等に対しては迅速に対応する姿勢が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念を元に職員が目標を立て、リビングに掲示し、全員で共有している。 馴染みある地域での暮らしということで、地域の飲食店を利用し入居者の楽しみの一つとして頂けるよう企画を立てている。 	理念は「一人ひとりに行き届いた手を・家庭的な雰囲気大切に・「いきがい」「やすらぎ」「笑顔」を忘れずに・なじみの暮らしを続けられるよう地域ぐるみのかかわりを、。」としている。基本理念を基に職員が輪番制で週間目標をホーム内に掲げ共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者全員が町会へ加入し、ふれあい喫茶や季節ごとの地域行事に参加している。 近くの神社や公園へ散歩に行き、地域の方との交流の場を設けている。 	町内会に加入し、地域の行事(ふれあい喫茶、神社の春・秋の祭り等、)や集会に参加している。近隣の喫茶店や飲食店での飲食の機会も多い。施設で開催するクリスマス会・流し素麺の行事等に地域住民を招待し地域と良い関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々、老人会からの要望を取り入れ、毎年イベントを開催している。 法人として社協のメンバーに登録・防災委員の会員となっている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 2カ月に1回開催しており、入居者の生活状況や近況報告について説明し、意見を取り入れている。 入居者も参加を促し、家族へは訪問時やお手紙などで参加をお願いしている。 	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。参加者は利用者・連合会長・町会長・民生委員・老人クラブ会長・女性部長・地域包括支援センター職員・施設長・管理者・職員等で構成され、施設の情報提供や合同防災訓練の参加依頼等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 市に連絡を取りケアサービスについての助言を頂いている。 入居者のサービス提供に生かせるような情報を受けるなどの連携を図っている。 	市の担当職員の訪問時に施設の利用者の生活状況や相談事を話合っている。常日頃から解らない事や困難事例時は電話で聞くようにしている。地域包括支援センター・社会福祉協議会の職員へは利用者の病状について話し合い病院紹介をして貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の生命に危険が及ぶ可能性が著しく高い場合以外は身体拘束をしない方針であり、身体拘束をせずに行うケアなどの勉強会を行い日々の支援に活かせるよう心掛けている。 	玄関は施錠しているが、4階の出入口は時間を見計らって開錠している。拘束が必要時には家族・医師の承諾を得て、身体拘束に関する経過観察記録に記載し、家族から同意を得て捺印している。職員は拘束の弊害を理解し、マニュアル・勉強会に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止については、勉強会を実施している。 昨年より接遇委員会を発足し、職員の言葉遣いや接遇についての勉強を実施しており、職員で話し合い共有している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会にて資料をもとに、職員全員が学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明書に記載している内容について説明し疑問点等の確認をしている。 ・面談で入居者や家族の希望等を聴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・匿名で意見が出やすい位置に意見箱を設置しており、苦情窓口の説明も行っている。 ・定期的に家族面談を行い、意見や要望を聴いている。	利用者や家族が意見、要望、苦情を聞く手段として、苦情相談窓口を設置している。家族面会時に直接意見、要望を聞くようにしている。訪問できない家族には担当職員がお手紙を書いて、写真を付けて送付している。また家族へ電話して施設への来訪を依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1度はミーティングを行い、職員個人の意見を聴く場を設けている。 ・年に2回、管理者と職員の個人面談を行い、意見を聴いている。また、施設長に報告を行っている。	職員会議は定期的に月1回開催して、利用者の症例カンファレンス・職員の運営上のサービスの問題点、改善を聞く機会を設けている。管理者は年2回個人面談があり、自己評価表を用いて評価、問題点を上げて話し合い、その結果を施設長に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回、職員全員が自己評価表を記入し、面談を行っている。 ・ミーティング等では、職員が負担にならないような介助方法などを話し合い検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修費用は法人負担で、可能な限り職員に応じた研修を受けることができる。また、全職員が順番に研修に参加できるように配慮している。 ・事業所内で定期的に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会に参加しており、意見交換を行っている。また、他施設の管理者と連絡を取り合い情報交換を行っている。 ・全国認知症グループホーム協会へ加入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前には施設内の見学・面談を行い、入居者の不安な気持ちを傾聴しお話をしている。 ・安心して入居していただくためにも、希望者には体験入所を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の話を傾聴し、その方の気持ちになって、その状況に応じた対応が行えるように努めている。 ・情報シートも活用し問題点を明確にし、納得できるサービス提供を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談時に本人と家族が「その時」まず何が必要かを見極め、サービスについては施設長、管理者が地域包括支援センターや、他事業所から情報収集し随時対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者それぞれの得意分野を見極め、職員の手伝いをさせていただいたり、好きなことを一緒にできる関係を築いている。 担当職員を決め、信頼関係が築けるような支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的に会議を行い話しあう機会を設けている。また、面会時等リビングで、職員も一緒に談笑できるような時間を作っている。 ・入居者に何か変化があった時は速やかに家族に報告し、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人と家族から、昔からの馴染みや生活歴を聴き取り、買い物支援等を行っている。 ・職員も同行し日中、自宅へ帰る支援を行っている。	アセスメントシートに、利用者の生活歴や家族からの情報を記録し、これまでの生活の継続性を確保した支援をしている。馴染みの友人の訪問、家族に毎年賀状を書いたり、お寺へのお参り、正月に家族とホテルへ泊まる支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士が助け合い、楽しみながら暮らしていけるように、時には職員が間に入り支援することで、良い関係を築いている。 ・一人ひとりの時間も大切にと考え、居室で休息していただく時間も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設や病院へ移る際は面談を行ったり、移る先の関係者に詳しく情報を伝えている。 ・退所後も家族からの相談を受けたり、他施設の紹介も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの思いや希望を傾聴できるように、散歩に出かけるなど、職員と一对一の時間を設けている。 ・センター方式を使い、職員全員で入居者の想いに少しでも近づけるよう努めている。	アセスメントシートや日々の関わり、介護記録などにより、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を担当職員がセンター方式を用いて記録し、全職員が共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・情報シートを作成して、家族の協力を得ながら、本人の情報について把握するようにしている。 ・職員が良いと思う情報シートを取り入れ詳しく記入できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・情報シートやADL表を作成したり、血圧表、水分摂取表を記入することにより、心身状態が把握できる。 ・医療スタッフとの情報交換ノートを活用し、体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・必要に応じて入居者の希望を考慮しながら、現状に即したケアプランの立て直しを行っており、面談やモニタリングも行っている。 ・職員の意見も参考にしている。	利用者や家族の希望、要望を聴き、職員が意見を出し合って介護計画を作成している。定期的な見直しとは別に入院やADLの低下の時はカンファレンスを行い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送りで入居者の変化を詳しく伝え、また申し送りノートの記入も行い共有している。 ・職員はあき時間を利用して、個人ファイルに目を通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・医療スタッフとの連携が整っている。 ・同法人、他施設との連携を密に取り、情報交換や相談、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の飲食店等を利用し、地域の方との交流を図っている。 ・消防訓練や無断外出時の捜索のため、消防署や警察の協力を得ている。地域の方からの協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・以前からのかかりつけ医への受診継続について入居時に希望を聴いている。 ・2週間に一度の往診と、急変時にはすぐ対応できる体制が整っている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望により決められている。内科は2週間に1回。歯科は月1回(希望者のみ)受診は全員受けているが治療の必要があれば、家族と相談して治療を開始する。精神科受診は基本家族同行としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・法人のクリニックの医師・看護師との連携を取り、常に相談でき健康管理や体調不良時等適切な指導を受けられる。 ・看護連絡ノートも活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者が入院した際は、家族との連絡を取ったり、病院関係者との連絡も取り情報交換を行っている。 ・介護サマリーを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・医療ケア管理シートを作成して、段階的にその都度入居者、家族と面談して記入していく ・職員の研修を行い終末期についての意識の統一を図っている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」について契約時に説明している。重度化・終末期と診断されると再度指針について説明を促し、その時点で同意書を頂いている。職員は定期的に内科疾患について、担当者を決めて勉強会や内外研修会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署に来ていただき救命講習を受講している。また、マニュアルを参考に、勉強会を行っている。 ・入居者の状況に応じ、医師、看護師とその都度協議し検討したうえで対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行い、消防署の指導を受けている。 ・運営推進会議にて避難訓練を行っている。	年2回、定期的に消防署立会の避難訓練を実施しマニュアルを作成し、緊急連絡体制も整備している。非常用持ち出し品、備蓄品の整備もしている。地域住民との協力体制の構築も十分出来ている。今月実施する合同訓練時に住民の参加が予定されている。避難場所の確保もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、入居者への言葉遣いに気を配り、勉強会も行っている。職員同士の言葉遣いにも気を付けお互いが注意合っている。 ・個人情報の資料は金庫に保管している。 	<p>接遇委員会(法人全体)を設置し、勉強会・研修会を開催し、各施設で伝達講習を実施している。職員の不適切な行動・言動・態度について職員間で注意喚起を促す体制が出来ている。個人情報保護規定を定め、個人記録の取り扱いや保管に留意している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が時間を作り、寄り添う事により、入居者の思いや希望を聴き出す。 ・意思表示できない方は日々ケアの中で注意し、表情の変化を見逃さないようにする。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の起床時間から入床時間まで一人ひとりのペースを大切に支援見守っている。 ・時間がかかってもその方の好きな事や、得意な事ができるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・服等のご自身で選んでいただき、職員の方からは口出しはせず、本人の好みや意向に配慮している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日や誕生日会などの行事には好きなメニューを考えて頂き、買い物もしている。 ・食事の盛り付けや、片付けは毎回手伝っていただいている。 	<p>食事はクックチルドを利用している。ご飯・味噌汁・一品は施設で調理している。日曜日は買い物から調理まで施設で実施。利用者の希望や要望を取り入れ調理している。月1回手作りケーキを利用者と共に作っている。フードコートへ外食する事もある。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体重管理を行い、体重の変化がある方は、医師・看護師の指示をいただき、栄養のバランスに気を配っている。 ・食事摂取量や水分摂取量は個人記録に記入し管理している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時や夕食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。 ・月に一度は歯科往診で医師の指導も受けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個人の排泄パターンを把握して、定期的にトイレ誘導・オムツ交換を行っている。 ・夜間も巡視時にトイレの声かけを行っている。 ・ポータブルトイレの活用もやっている。	利用者個々の排泄パターンやリズムの記録をもとに確認して自立した排泄習慣が維持出来るように支援している。日中はリハバン夜間のみポータブルトイレの使用工夫もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給をまめに行い、水分量の管理を行っている。また、毎日無理のない程度で、体操を行っている。 ・便秘時には医師や看護師の指示の元、排便コントロールを行い、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入居者の体調や希望に添えるように、時間や回数を考慮している。 ・入浴剤を使用したり、音楽を流したりと、楽しんで入浴していただけるよう工夫している。	入浴は冬場は週3回が基本としているが、利用者の希望、尿路感染予防の清潔保持の必要により調整している。入浴を楽しんで頂ける様にゆず湯、菖蒲湯、入浴剤等の工夫がしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握して、必要な休息や睡眠が取れるように、支援している。 ・午後には皆さんが昼寝をできる環境を整えているが、個人の自由としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服セット箱に薬をセットして、服薬時も声を出してチェックを行い誤薬を防いでいる。 ・服薬表をファイルに綴じており、職員は使用している薬について理解に努めており、服薬の変更時はノートにて申し送る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・他入居者との会話や本人の言葉から、一人ひとりの喜びや楽しみ事を引き出し、支援できる環境を整えている。 ・将棋、傾聴のボランティアを活用する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・気分転換を図るため、天気の良い日は買い物や、散歩に出かけている。 ・季節を感じるための外出レクを企画している。また、希望に沿った外出を行っている。 ・地域のふれあい喫茶に参加したり、季節ごとの行事にも参加している。	利用者の体調や天気の良い日には淀川の河川敷、公園、外食、神社への花見、スーパー、コンビニ、薬局への買い物の外出支援をしている。外出レクとして神社への花見・宗禅寺・菖蒲園・紫陽花園へ車で支援している。希望者は小規模多機能型居宅介護(ひよ)のバス旅行に参加している。	施設での年数が経つにつれて、利用者のADLの低下が問題になってくるが、外出を望まない方でも外気と触れ合うことにより、気分転換の効果が期待出来る。バルコニー活用での外気浴など利用者の状態や意志に添った上での工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人で財布を持ち、お金を所持されている方もおられる。 ・買い物希望される時は職員が付き添い出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望者については、電話の介助を行っている。 ・毎年年賀状の介助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは季節を感じられるような切り絵や飾り付けをし、棚には人形やぬいぐるみを並べ、入居者がいつでも、触れるようにしている。居心地良く過ごせるようにテレビの前にはソファを配置し、入居者が自然に集まる空間となっている。	広くゆったりとしたリビングは家庭的な雰囲気のある寛げる落ち着いた色調になっている。壁には利用者が作成した作品、写真が掛けられている。テレビの前にはソファが配置され、気の合う人とのプライベートな時間を過ごせる配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルやソファに座り、気の合った入居者同士で談話している。 ・午後からは居室で一人で過ごして頂ける時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は昔からの馴染みの物を飾り、クローゼット内にも好きな衣類を入れ、入居者が最も心休まる空間となるように工夫している。 ・自宅ですべての家具等を持ってきていただくようお願いしている。	居室入口の表札は利用者が自分の部屋と認識できるよう、写真つきの表札になっている。居室は清潔に保たれ、クローゼット・冷暖房機が設置され、家具や調度品、写真、三味線等、利用者が使い慣れた品々が持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりが多く設置されており、転倒を防止し安全に暮らせるように工夫している。 ・各居室に入口には自分の居室であることが分かるように飾り等をして工夫している。		